

M O N T H L Y

vol.88

U P

なるほど！ 印刷用語の語源



印刷の現場に、下駄とルビー!?

活版時代に生まれた印刷用語。



普段、何気なく使っている印刷用語。

その語源について考えたことはありますか。

今回は「ゲタ」と「ルビ」という、用語の語源についてご紹介します。

●活字がゲタを履く理由

「＝」という記号を見たことはありませんか。この記号の読み方は、「ゲタ」。元々は活版組版の頃、必要な活字が足りない場合、あるいは判別が難しい文字があった場合などに、余っている活字を裏返して代替文字として使用していました。活字の底は中央に溝があり、印刷すると下駄の足跡のように見えることから、このように呼ばれたのです。印刷現場では、「＝」を使うことを「下駄を履かせる」と言います。

「＝」は活字の底の部分ですから、活字がなくなれば、「＝」もなくなります。しかし、不明な文字を表すためには何らかの記号が必要。そこで活版印刷が衰退し、活字自体がなくなっても「＝」は生き残ることとなったのです。

現在、「＝」が使われるケースとしては、コンピュータ上で表現できない文字の代替文字として。さらに手書き原稿をテキスト化する際、判読できない文字を表現するのに利用されています。

●なぜ、ルビと呼ぶのか

漢字の脇に、振り仮名がついていることがあります。この振り仮名のことをルビと呼びますが、その語源をご存知ですか。実はルビという名称は、宝石のルビーが由来になっているのです。

明治時代、新聞記事に使用されていた活字のサイズは5号(15級、10.5ポイント)。その振り仮名には、7号活字(8級、5.25ポイント)が使われていました。この7号活字に、もっとも近いサイズ(5.5ポイント)の活字をイギリスではルビーと呼んでいたことから、日本でも7号活字が「ルビ活字」と呼ばれるようになります。イギリスでは、活字の大きさに宝石の名前が付けられており、それが日本へも入ってきたというわけです。こうして印刷業界では、振り仮名自体をルビと呼ぶようになります。しかし、ルビと呼ぶのは活字の振り仮名のみ。手書きの文書の振り仮名は、ルビではないので間違えないようにしましょう。

活字の大きさと呼び方

- あ 4.5ポイント …… ダイヤモンド
- あ 5ポイント …… パール
- あ 5.5ポイント …… ルビー
- あ 6.5ポイント …… エメラルド

- あ 11ポイント …… スモールパイカ
- あ 12ポイント …… パイカ
- あ 24ポイント …… ダブルパイカ





<http://www.sezax.co.jp>

□本社・工場	〒146-0091 大田区鵜の木2-9-7	TEL 03 (3758) 2511(代)	FAX 03 (3758) 2754	
		営業専用	FAX 03 (3758) 2544	
□渋谷コア	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル6F	TEL 03 (3400) 9211(代)	FAX 03 (3409) 7315	
		5F	TEL 03 (3400) 9401(代)	FAX 03 (5468) 9253
□下丸子工場	〒146-0092 大田区下丸子2-20-4	TEL 03 (3758) 2516(代)	FAX 03 (3758) 8850	

株式会社セザックスクリエイティブ

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL 03 (3409) 4970(代) FAX 03 (3409) 2732

株式会社セザックスインターナショナル

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL 03 (3409) 0527(代) FAX 03 (3409) 6610



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの地球にやさしいインキを使用しました。

この小冊子は森林認証紙を使用しています。